

2012年2月23日(木)

第19回 ITER 企業説明会（日本橋、TKP 東京駅日本橋ビジネスセンター、カンファレンスルーム 7A）

[参加企業] 45名(29社)

[議事概要]

1. 片岡 洋 研究開発戦略官(文部科学省 研究開発局)より、ITER 計画の進捗についての説明があり、ITER 計画の現状、ITER ベースライン合意からの主な動き、ITER 建設スケジュール、第9回 ITER 理事会の結果概要、今後の予定等が示された。
2. 多田栄介 ユニット長（日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門）より、ITER 計画における日本分担機器の調達状況について説明があった。ITER ベースラインが設定され、国内機関(DA)による調達活動が本格化し、JADA では約72% (370kIUA) の調達取り決めを締結し、調達活動が実施されていることが示された。更に ITER 計画の活動支援の状況が示された。
3. 関谷譲 サブグループリーダーより、フランスの原子力規制、ITER の品質管理体制とともに、調達に係る品質要件事項として、調達管理文書、IO の立会、品質分類、CE マーキング及びトレーニングに関する最新情報が示された。
4. 角館聡グループリーダーより、ITER 遠隔保守装置（保守ロボット）の調達取り決めについて説明があった。遠隔保守ロボットは2013年10月までに詳細設計を終え、その後本格的な保守ロボットの製作に入り、2018年に完成を予定していることが示された。
5. 井上多加志サブグループリーダーより、ITER 中性粒子入射装置実機試験施設用機器の調達取り決めについて説明があった。調達機器として高電圧部電源及び高電圧ブッシングの説明と調達工程が示された。
6. 草間義紀グループリーダーより、核融合出力を計測する計測装置：ITER マイクロフィッションチェンバーについて、2012年3月に締結予定の調達取決めの内容が示された。

質疑・コメントは以下。

- Q1 ローズ指令とリーチについては、イーターの要求事項になっているのかどうか、そうであるならその影響が大きいので教えて頂きたい。
- A ローズ指令に関して、今のところ要求事項の対象にはなっていない。PAにも書かれていないし、SRDのシステム要件にも明示されていない。今後対象となる可能性もあるので注意深く対応していく必要がある。
- Q2 ITER 遠隔保守装置(保守ロボット)の開発技術は、福島原発の絡みで活かされているのかどうか。
- A 直接この技術を使う事は出来ないが、耐放射線機器などの技術・情報等で支援をしている。それに加え、機構では、核融合遠隔保守技術をベースに防災ロボットの開発をした。階段の上り下り、ドアの開閉などの機能実証を行った実績がある。
- Q3 計測装置に関して、現場の環境に依存するノイズについて、設計の段階から対策を講じる姿勢が大事かと思うが、そのあたりについてはいかがでしょうか。
- A 我々も同様の懸念をもっている。現場で計測装置を使う場合、ノイズになり得るものを予測し網羅、対策する意向である。JT60も含めて今までの経験を生かし、個々の現場でどのようなノイズがあるかを想定し、設計対応を図る考えである。また、現地に輸送する前に国内で性能試験を実施し、機能を確認することを考えている。
- Q4 真空容器を取りつけのときに、基本的な計測機器をはじめに据え付けなくては行けな

という、工程的に厳しい条件があるかと思うが、日本の調達のほかにも、ダイバーターの計測機器と同時進行する場合、工程上厳しいものがあるのではないかと。

- A 工程的に厳しくなるとは思っていない。ダイバーター用計測器の据え付けは、ヨーロッパで行う。ヨーロッパが、カセットの担当であるためアセンブリはそこで行う。カセットに取り付けたあとに真空容器に取り付ける段取りとなっている。



第 19 回 ITER 企業説明会  
(2012 年 2 月 23 日、於 TKP 東京駅日本橋ビジネスセンター) の様子

以上